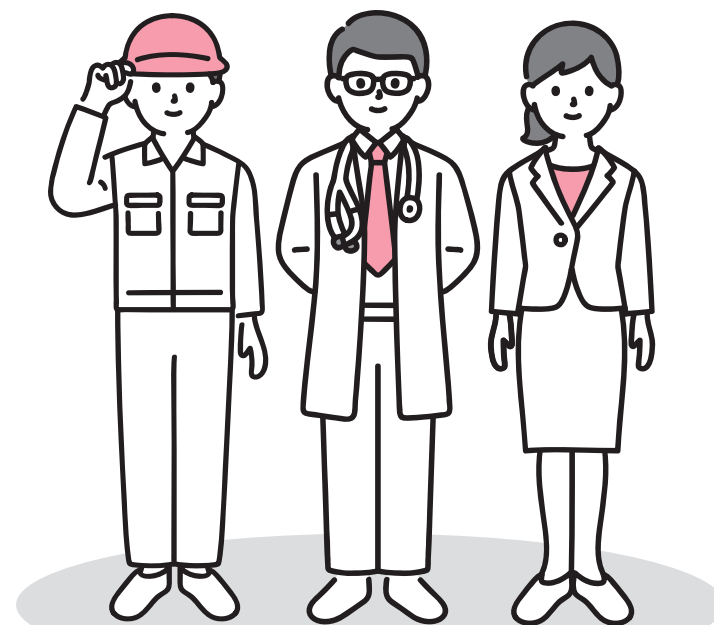


— 健康管理担当者向け —

# 職域における がん検診 ハンドブック

知っていますか？  
がん検診のこと。



▼ 詳しくはこちら



本ハンドブックは、平成30年3月に厚生労働省が策定した  
「職域におけるがん検診に関するマニュアル」を基に作成しました。

## はじめに

がんは、私たちの生命及び健康にとって重大な問題です。がんによる死亡率を減少させるためには、がんの早期発見・早期治療につなげるためのがん検診が重要であり、国の第3期がん対策推進基本計画においても、「がん検診の受診率の目標値を50%とすること」及び「精密検査受診率の目標値を90%とすること」が個別目標として掲げられています。

がん検診の受診者の約40～70%は職域におけるがん検診を受けており<sup>※1</sup>、そのため、職域におけるがん検診は、我が国のがん対策において重要な役割を担っているとと言えます。しかしながら、職域におけるがん検診は法的根拠に基づいた検診ではなく、多くの場合、保険者や事業主が福利厚生の一環として任意に実施しているものであり、その項目や対象年齢など様々であるのが現状です。

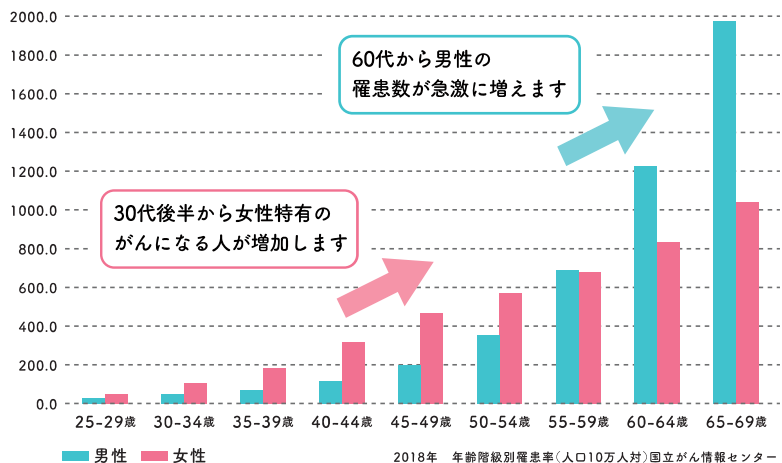
本書は、平成30年3月に厚生労働省が示した「職域におけるがん検診に関するマニュアル」(以下職域マニュアル)に基づき、職域における適切ながん検診を推進するために必要な事項をまとめたものです。

※1.令和元年度国民生活基礎調査結果より

- 2018年がんと診断された人の3人に1人(36.9%)が40代から60代の働き盛りです。

出典:がん情報サービス  
全国がん罹患データ

- 「働く女性の増加」や「定年延長」により、今後もがんになる従業員は増えていきます。

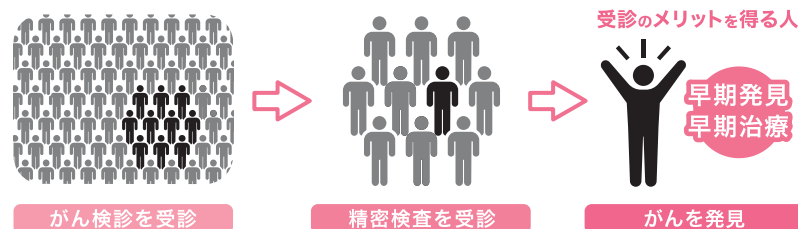


職域におけるがん検診は、今後より一層大きな役割を担っていくことになると考えられます。

## 1. がん検診のメリットとデメリット

- 「検診はできるだけ多くの部位でやるほうが良い」と思っていませんか？
- 「検診は若いうちから受診したほうが良い」と思っていませんか？

がん検診のメリットを得る人は、検診により早期発見・早期治療につながった方です。しかしながら、検診を受診した人のうち多くの方が「異常なし」と判定されるため、実際にがん検診のメリットを受ける人は、それほど多くありません。一方、がん検診における偽陽(陰)性や過剰診断などのデメリットは、受診した人に一定の割合で起こる可能性があります。



### 検診のメリット

- がんが発見され、治療を受けることによりがんによる死亡を防げます。
- 前がん病変を治療することでがんになることを防げます。

### 検診のデメリット

- 検診や精密検査に伴う偶発症
- 偽陽性(誤って、がん疑いありと診断されること)
- 偽陰性(誤って、がん疑いなしと判定されること)
- 過剰診断(死亡につながらないがんを発見すること)

決められた年齢の対象者に決められた間隔で、有効性のある検診を適切に提供することで、検診のデメリットを減らしていくことが重要です。

## 2. がん検診の種類

検診を受診することで、がんで死亡するリスクを低くすることが科学的に証明され、国が推奨するがん検診は、以下の**5種類**です。

### ■国で推奨されているがん検診

種類	検査項目	対象者	受診間隔
胃がん検診	問診に加え、胃部エックス線検査又は胃内視鏡検査のいずれか	50歳以上 ※1	2年に1回 ※1
子宮頸がん検診	問診、視診、子宮頸部の細胞診及び内診	20歳以上	2年に1回
肺がん検診	質問(問診)、胸部エックス線検査及び喀痰細胞診	40歳以上	年に1回
乳がん検診	質問(問診)及び乳房エックス線検査(マンモグラフィ)※2	40歳以上	2年に1回
大腸がん検診	問診及び便潜血検査	40歳以上	年に1回

出典：厚生労働省 がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針(令和3年10月1日一部改正)より  
※1, 当分の間、胃部エックス線検査については40歳以上に対し1回実施可 ※2, 視診、触診は推奨しない



国が推奨するがん検診は  
検診のメリットがデメリットを上回る  
検診です。

これら5種類の検診を中心に  
検診種類 / 年齢 / 受診間隔  
を検討しましょう。

国で推奨されているがん検診の実施が重要です。

## 3. がん検診の精度管理と精密検査

### ①精度管理とは

工場などでは、製品の質を高めるために品質の管理を行います。がん検診においても、その質を高めていくために、検診が正しく行われているかを検証することが大切です。このことを、精度管理といいます。

精度管理が行われていない質の悪い検診を提供すると

- がんではないのにがんを疑い、  
必要性のない精密検査や治療を行う可能性が生じる。
- がんがあるのに発見できず、  
早期治療の機会を逃してしまう可能性が生じる。

職域マニュアルでは、精度管理を行うため、事業者はがん検診の実態の把握に努めることが望ましいとされていますが、職域におけるがん検診では、これらがほとんど実施できていないというのが現状です。

### ②精度管理を行うための指標(プロセス指標)

実施したがん検診の精度管理を行うための指標(プロセス指標)としては、以下の5種類があります。市町村が実施しているがん検診では、これらの値を算出し、事業評価として精度管理を行っています。

プロセス指標	指標の意味
受診率	検診を受けるべき対象者が実際に検診を受けたかを測る指標
要精検率	検診で、精密検査の対象者が適切に絞られているかを測る指標
精検受診率	要精検者が実際に精密検査を受けたかを測る指標
がん発見率	実施したがん検診において、適正な頻度でがんを発見できたかを測る指標
陽性反応適中度	実施したがん検診において、効率よくがんが発見されたかを測る指標

提供したがん検診が、正しく行われているかを  
検証していくことが大切です。

### ③精密検査について

要精検と判定された方が、精密検査を受診しなければ、がん検診の効果が得られません。

#### STEP.1

がん検診で要精検となった方がいる場合

- ・精密検査を受診したかどうかの確認をしましょう。
- ・受診していない場合は、受診するよう勧奨しましょう。



#### STEP.2

さらに効果的ながん検診のために、精密検査の結果を把握しましょう。

**精密検査結果の把握は精度管理の第一歩です。**

## 4. がん検診と個人情報

がん検診は、法律に基づかない検診のため、**検診結果・精密検査結果の取得には予め本人の同意が必要です。**  
検診提供時に、予め本人の同意を得ておきましょう。

#### 参考 一般健康診断(定期健康診断)の結果について

- ・ 個人情報にあたりますが、個人情報の保護に関する法律第23条第1項第1号の「法令に基づく場合」に該当するため、事業者は、本人の同意を得なくても取得することが可能です。
- ・ 保険者<sup>※1</sup>が、その結果を求めた場合も、第三者提供に係る本人の同意が不要とされています。(THP指針<sup>※2</sup>による)

※1 健康保険の運営主体 ※2 事業場における労働者の健康保持増進のための指針

**がん検診の個人情報は取扱いに注意が必要です。**

## 5. 職域でがん検診を実施していない場合

職域で提供していないがん検診がある場合、事業者や保険者が市町村と連携することで、企業で働く従業員のみ皆さんのがん検診受診につなげることが期待されます。

- ・提供していないがん検診については、市町村での受診が可能です。

#### 『健活10』けんしんページ

大阪府内市町村のがん検診ホームページ一覧などを掲載しています。



## 各窓口のご紹介

- ・がん治療と仕事の両立支援体制を整えたい

#### 大阪産業保健総合支援センター

専門スタッフ（産業カウンセラー、社労士等）が大阪府内の事業所に訪問し、両立支援制度の導入支援や患者（労働者）と企業間の個別支援などを行います。



- ・大阪府のがんに関する情報を知りたい

#### 大阪府 おおさかがんポータルサイト

大阪府や国が指定する、がんの診療機能が高い「がん診療拠点病院」の情報や、がんに関する相談窓口である「がん相談支援センター」についての情報などががんに関する様々な情報を掲載しています。



- ・このハンドブックについてもっと詳しく知りたい

#### 大阪府 職域がん検診推進のページ

このハンドブックの動画等を掲載しています。

